令和元年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第１回介護職から医療職向け研修会

※ 参加者アンケートの集計結果は別紙をご参照ください。

○日　時：令和元年５月１６日（木）　午後７時３０分～９時００分

○場　所：那覇市医師会・４階ホール

○参加者：８２名（医師６名、看護師８名、保健師３名、ＭＳＷ５名、
ケアマネージャー・ケアプランナー３１名、リハビリ４名、薬剤師１名、
栄養士２名、社会福祉士６名、介護職２名、精神保健福祉士２名、
認知症地域支援推進員３名、その他９名）

○司　会：嘉数 朗 先生（那覇市医師会　在宅医療・地域包括ケア担当理事）

●テーマ：『 身寄りのない方の支援時の連携について… 』

発表者：居宅支援センター いしだ介護保険相談所　介護支援専門員　金城 和彦　氏

講　師：ゆいま～る法律事務所 弁護士　寺田 明弘　氏

司会：嘉数 朗　氏

発表者：金城 和彦　氏

講師：寺田 明弘　氏

ディスカッション風景

令和元年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

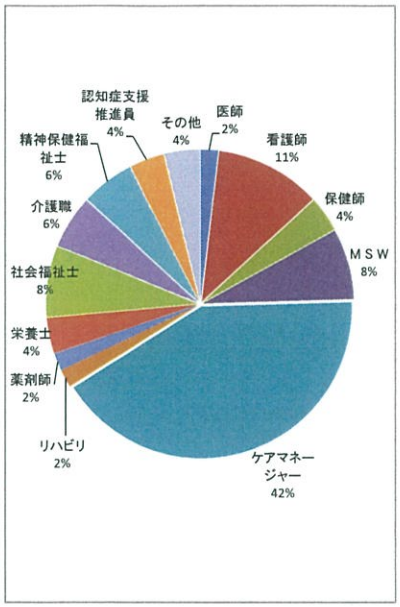
第1回介護職から医療職向け研修会アンケート集計結果

日時：令和元年5月16日（木）　午後7時30分～9時00分
場所：那覇市医師会・4階ホール

参加者：82名
回答者：53名
回収率：65%

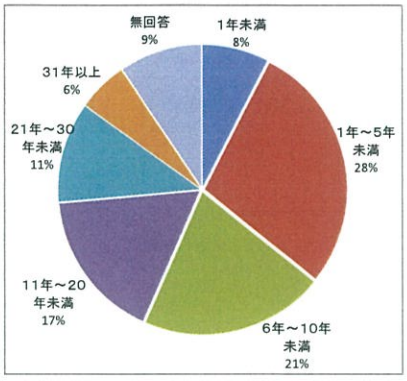
アンケート回答者の職種

職　種	人数	割合
医師	1	2%
看護師	6	11%
保健師	2	4%
MSW	4	8%
ケアマネージャー	22	42%
リハビリ	1	2%
薬剤師	1	2%
栄養士	2	4%
社会福祉士	4	8%
介護職	3	6%
精神保健福祉士	3	6%
認知症支援推進員	2	4%
その他	2	4%
合計	53	100%



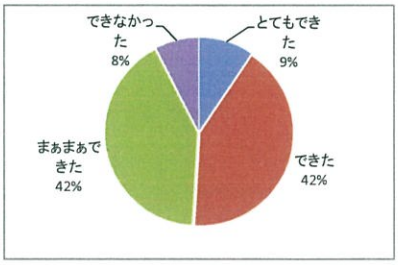
アンケート回答者の経験年数

経験年数	人数	割合
1年未満	4	8%
1年～5年未満	15	28%
6年～10年未満	11	21%
11年～20年未満	9	17%
21年～30年未満	6	11%
31年以上	3	6%
無回答	5	9%
合計	53	100%



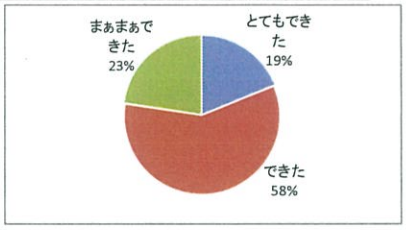
①ご自身の意見を遠慮なく発言することができましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	5	9%
できた	22	42%
まぁまぁできた	22	42%
できなかった	4	8%
合計	53	100%



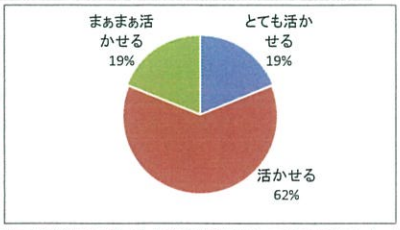
②「介護」の状況を理解することができましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	10	19%
できた	31	58%
まぁまぁできた	12	23%
合計	53	100%



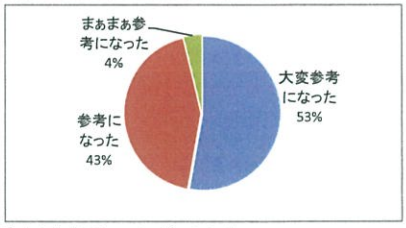
③明日からの業務に活かせますか。

選択肢	人数	割合
とても活かせる	10	19%
活かせる	33	62%
まぁまぁ活かせる	10	19%
合計	53	100%



④研修会の内容についてのご意見・ご感想。

選択肢	人数	割合
大変参考になった	28	53%
参考になった	23	43%
まぁまぁ参考になった	2	4%
合計	53	100%



・成年後見制度について理解を深めることができた。
・介護状況と法律的な話しを関連づけて理解することができた。
・チームワークの構築とそれを継続していくことが印象的だった。
・法的な観点からみることの大切さを学んだ。
・病院に倫理委員会があるなど初めて知った。
・申し立ての際にシートが追加になったことも知れて良かった。
・色々な制度があり、その活用方法を知ることができて良かった。
・身寄りのないケースの支援で法律行為や緊急連絡先で困ることがあったが、後見人の活用で道が開けそうです。ただ、後見人の担い手などの検討が必要だと思う。今後も引き続き勉強していきたい。
・今後、独居や身寄りなしのケースは増えていくと思うので勉強になった。また、課題が多いことも再確認できた。
・課題をバラバラに考えるよりも「つながっている」と考えていく方法が良い等、グループの話し合いがとても理解できた。
・症例検討のようなケースになった場合、知識として頭に入れておくことで支援につながると思った。
・業務上、身寄りのない方の支援を行なうことが多く、多職種（医療・居宅・包括など）の立場から議論することで勉強になった。

⑤テーマ：『 身寄りのない方の支援時の連携について… 』　発表者：金城 和彦　氏

・大変なケースだったと思いますが、グループワークでの議論は白熱してました。先輩方の経験談も色々聞けて勉強になった。
・一人の人を支えるために大勢の力が必要だということを改めて感じた。多職種の連携・支援が大切だと思った。

令和元年度 那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第1回介護職から医療職向け研修会アンケート集計結果

日時：令和元年5月16日（木）　午後7時30分～9時00分
場所：那覇市医師会・4階ホール

参加者：82名
回答者：53名
回収率：65%

・ニーズやテーマが重すぎて心折れそうになったが、周囲の人々に「恵まれた人」と言われるような支援につなげていた素晴らしい事例だった。さらに、「今後も関わり続けていきたい」とおっしゃっていたので凄まじさを感じた。
・多職種の連携によって人の人生にどう関わっていくのかを深く考えさせられた事例だった。
・身寄りのないケースは今後も増えていくと思われるので、チームでの支援をスムーズに行えるようにする必要性があると思った。
・身寄りがいないと全ての負担がケアマネにきます。多職種で話し合って正解はなくても役割分担して日々を乗り越えていくことの大切さを教えてもらった。
・公的なサービスだけではなく、地域とのつながりの重要性を感じた。
・手探りで様々な支援方法を考え、悩み大変お疲れ様でした。成年後見人も決まりひと段落ですね。ご本人も幸せだと思います。
・身寄りのない方の支援に際し、ケアマネさんや事業所の方など、時間外に対応したり各種署名を依頼されたりと困惑・負担がかかりすぎているのではないかと思った。一定程度の指針が示されるようになった方が良いと感じた。
・今後身寄りのない方の支援をする際の視点やリスク、多職種チームの連携の必要性などがとても参考になった。
・どの職種も日々同じようなことに悩んでいる…ご本人様の要望は何なのかを常に念頭に入れながら対応することが大切だと感じた。
・ケース検討会議を開き、皆のアドバイスをいただきながら利用者と今後の人生を考えていけるケアをしたいと思った。
・日々の業務の中でありえそうなケースだと思い、「自分だったら？」という気持ちで考えました。利用者との関わりが長く濃くなればなるほど悩むだろうなと思った。自分の身も守りながら最適な方法を多職種で意見を出し合いながら考えていきたいと思った。
・今後一人暮らしの方も増えてくる中で安易に施設ではなく、在宅生活を支えるのは大切。人材不足がさけばれる中で横のつながりを日々つくる必要があると感じた。正面から向き合ったことに使命を感じた。

⑥ミニレクチャー：『 身寄りがない方の支援について 』　講師：寺田 明弘　氏（ゆいま～る法律事務所）

・意思決定支援は現在の日本の福祉現場での大きな課題です。支援者はパターナリズムになりやすいため、改めて考える機会になった。
・成年後見人の認識の違いを正すことができて良かった。
・後見人は簡単に手続きできない仕組みになっているのではないか？市民後見人について本当に信頼できるのか？後見人としての仕事の内容を本当に弁護士なみにできるのか疑問がある。
・日頃から考えている「後見人」と「医療行為の決定」について今後も勉強していきたい。
・「判断能力」というのはどのような状態なのか…判断していても不適切という状況はどうなんだろう。
・後見人の研修は何回も受けているが実際に活用するかというと難しい問題だと思う。
・利用しやすい後見人制度に向けて国が動いていることが分かった。一人で悩まず困ったときは弁護士等に相談します。
・無理のない範囲でそれぞれができることを協力し、負担分けできるといいなと思った。
・「リスク管理」とは具体的にどのようなリスクがあるのか、事例を交えてお聞きしたい。
・「診断書」や「本人情報シート」などを用いての説明で具体的で分かりやすかった。本人の意思の尊重の大切さも再認識できた。
・各地域包括支援センターに担当弁護士がいることを初めて知った。

⑦今後、どのようなプログラム（テーマ）があったら参加したいと思いますか？

・「多職種連携」という言葉が多く挙がっていますが、それを再度見つめ直すためにもそれを考えるテーマがあったら良いと思う。
・認知症、またはその家族の他者依存の場合の関わり方について
・認知症（地域づくり、受診へどう連れて行ったのか？身寄りがいない認知症の方の支援など）について
・身体拘束（高齢者虐待など）について
・昨今の事情から在宅で求められ、ニーズのある業務分掌の拡大（介護職の注射など）について
・ゴミ屋敷の対応について
・ケアマネや介護事業所が保証人になって困った事例があったら教えていただきたい。
・事例検討会の場合、ほとんどが利用者本人の課題としてディスカッションすることが多いと思いますが、ご本人よりキーパンソンとなる家族が発達障がい等でコミュニケーションが難しいケースもあるので、そういったケースも検討していただきたい。